

町の裏町ならんか。本多町に能登町の舊名あれど、是と異なり。國事昌披問答には、此の町名を記載せず。早く絶えたりけん。按ずるに、國名の町名は出羽町・長門町など有りて、出羽町には篠原出羽守の邸宅有り、長門町は山崎長門、備中町は岡嶋備中守より起りて、町名と成りたるよしなれど、能登と呼べる藩士あるを聞かず。松雲公夜話録に、上杉謙信土賊退治として加州へ發向の時、寒氣に堪へず河北郡大田村に滯陣の處、賊將何の能登といふ者の爲に謙信敗軍す。利家卿入國の後其由を聞き給ひ、彼能登を召出し、藩士に加へらる。然るに公出陣屢なれども武功もなく、遂に祿を辭して、退去せしよし、松雲公の御物語ありたりと云ふ事見られたれど、右能登といふ人は、洲崎兵庫が事なるべし。關原政春の古兵談に、須崎兵庫といふ一揆大將は、越後謙信十月の頃加州へ發向して、河北郡中俵太田に陣取り、其日大雪にて兵士在家へ入りて寒氣を防ぐ。然るに須崎兵庫八百許にて山手より夜軍を懸けるに、謙信一支へもあはず越後へ敗軍す。利家卿右の手柄をば開召し、千石賜はりけるに、度々の軍役に一度も手にあはず。不首尾にて

遂に召放され、行末不知と、加州老人語るとあり。右兵庫が事をば綱紀卿過聞し給うて、何の能登と云ふ人と宜ひたるか。若しくは筆者中村典膳が承り違ひにてもあるべし。

○林檎名産  
金澤の世諺に、長のりんご。村井のかうじとて、林檎は長町なる長氏の下邸の産を名産となしたれど、近くは十三間町邊の産を第一等とす。其の質大にして味ひ甚だ宜しといへり。或は云ふ。林檎は水氣ある<sup>(濕)</sup>地はよからず。地下石多く水氣を保たざる地甚だよし。十三間町邊は往古犀川の河中を埋め、町地となしたるがゆゑに、上土のみにて地下は悉く石原なり。故に水氣早くひきて林檎を植うるに甚だ應ずとぞ。

○朱免野村跡  
朱免野は、石浦郷七ヶ村の一村にて、昔犀川橋の近邊にあり。今十三間町の邊則ち其の村跡也といへり。石浦神社に傳來せる慶長十一年八月十日石浦七ヶ村氏子の連判狀に、朱免野村八左衛門と載せられたれど、同月廿三日の訴訟連判狀に、石浦七村の内觀音堂のむかうなるしめの村は、田島過

分の高にて御座候を、此の近年河くづれにまかり成り、一村たえうせ申す。と記載せり。按ずるに、寛永八年の石浦神社氏子地圖を見るに、大工町と新堅町との後、地に朱免野村地と載せたり。されば今堅町・新堅町・大工町・十三間町の地邊は、都て朱免野の村地にて、村落は十三間町邊にありたるゆゑに、慶長十一年の訴狀に、觀音堂の向うなる朱免野村とは記載せし事知られけり。右觀音堂は御前坂の高なる慈光院の觀音堂をいへり。慶長十一年に近年河崩に一村絶失申すと記載すれば、慶長の初頃まで村落ありしと聞ゆ。但し明和二年六月石浦慈光院の由緒書に、石浦郷七ヶ村之内朱免野村は犀川橋近邊に有之處、川崩之節只今犀川河下朱免野村之地へ引移さる。と書載せたり。右は全く寺僧の誤解なるべし。川下の示野村は大野庄内の村落にて、石浦郷の朱免野村と異也。大野庄の示野村は、藩祖利家卿天正十四年正月廿二日佐那武神明の氏子村付の印書に、既に示野と載せ給へり。されば石浦郷の朱免野村とは別村なる事いちじるし。示野はしめのと呼び、朱免野はしゆめのと呼べるなるべし。或は云ふ。今主馬町と呼べる町

地は、若しくは往古朱免野村の村跡にて、村落此の地邊にありしゆゑに、朱免野町といふべきを、後人主馬町と書きけるならんといへり。按ずるに、此の説さもあるべけれど、主馬町は昔本庄主馬といふ人の邸地ありし故に町名とす。依りて主馬殿町とも呼べり。また朱免野村は、寛永八年の石浦神社氏子地圖に、大工町と新堅町とのうしろ地に朱免野村地と記載すれば、今いふ十三間町邊に村落ありて、主馬町の地とは甚だ隔るのみならず、主馬町邊は百姓町の地繼ぎにて、石浦の村地なる事知られけり。

○犀川川除町  
金澤町會所留記の寛文十年九十歳者書上帳に、九十二歳才川川除町半人廣瀬茂左衛門母善照と見ね、元祿九年の地子町肝煎裁許附に、才川川除町とありて、犀川の川縁なる町地をば都て川除町と呼べり。皆川縁の堤防に家建てせしゆゑなり。今上川除町・中川除町・下川除町・新川除町の四町に分てり。町會所留記に、犀川上川除町は法然寺邊より下舟場邊まで、犀川中川除町は下舟場邊より大橋邊まで、犀川下川除町は大橋邊より寶久寺邊まで、犀川新川除町は寶